

会館だより



2014年 11月号

No.305



公益財団法人 日中友好会館



目次

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・貸美術館催事「中国書画展示会」
- ・貸美術館催事「第十七回国際水墨画交流展」

《日中友好後楽会》

- ・秋季友好バスハイク
- ・会員総会（もみじの会）
- ・新規会員ご紹介

活動記録

- ・2014 後楽寮国慶節祝賀会
- ・9月談話会
- ・「JENESYS2.0」中国青年代表団が来日
- ・「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第14陣が来日

ご挨拶

- ・留学生事業部に夏瑛副部長が着任

事務局通信

- ・総合交流部のご紹介

コラム

- ・理事長のツイッター

会館行事と人の動き

表紙

『解脱経図』

青海省レゴン地方のタンカ(仏画) 幅 230cm×高 130cm 2013年制作

「第24回中国文化之日 展覧会 印象青海 青海省タンカ芸術展」(2014年9/26～10/19開催)より

青海省黄南チベット自治州レゴン(熱貢)地方のタンカ絵師によって描かれたチベット仏教の仏画「タンカ」。仏陀の両脇には二大弟子の舍利佛と目犍連、ほかに説法を聞く人々、上部には阿弥陀如来の極楽浄土をはじめ様々な浄土の世界が描かれている。



行事案内

日中友好会館美術館

◆貸美術館催事

「中国書画展示会」

会 期：11月7日 ～11月9日
 時 間：10時～17時
 ＊初日は14時より最終日は15時まで
 主 催：日中学院
 入場料：無料

竹中憲一先生(早稲田大学教授、元日中学院講師)が個人で所有する100余点の中国書画を展示します。これまで多くの中国人と交流をもたれ、その間、自身で蒐集、また著名な文人墨客から贈られた貴重な書画の数々を、できるだけ多くの方にご覧いただけたら幸いです。

【問合せ】日中学院 電話：03-3814-3591
 03-3813-9145(会期中のみ)

◆貸美術館催事

「第十七回国際水墨画交流展」

国際水墨画交流協会は、東洋美術学校、中央美術学院、中国美術学院の支持のもと、1996年に設立された民間交流団体です。今年で17回目を迎える本展は、中央美術学院教師陣、協会会員、東洋美術学校中国水墨画科学生の、水墨・彩墨作品約60点を展示いたします。多彩な内容で毎回好評をいただいております。

今年も力作が集まりました。どうぞご高覧頂きますよう、ご案内申し上げます。

会 期：11月10日 ～11月16日
 時 間：10時～17時＊初日は14時より開幕式
 最終日は15時まで

主 催：国際水墨画交流協会
 協 賛：東洋美術学校
 後 援：中国大使館文化部、日中友好会館、
 中央美術学院(北京)、中国美術学院(杭州)、
 日貿出版社、専門学校新聞社、露満堂
 入場料：無料

【問合せ】国際水墨画交流協会
 電話：03-3359-7439

日中友好後楽会

◆秋季友好バスハイク

後楽寮生からのリクエストが多かった富士山周辺を見学します。この季節にしか見られないもみじトンネルやもみじ回廊など、美しいもみじと世界遺産 富士山とのコラボレーションを後楽寮生と共にお楽しみください。この機会に日本の良さを後楽寮生にお伝えいただき、交流を深めていただければと思います。

日 時：11月13日
 8:00、後楽賓館前より出発予定
 行 先：富士河口湖紅葉まつり、
 西湖いやしの里根場など
 (山梨県河口湖方面)
 費 用：お一人9,000円(バス、昼食、入場料込み)

茅葺き屋根が残る西湖いやしの里根場の見学、伝統工芸体験も予定しています。お申し込みの方には、別途詳細をご案内申し上げます。(担当：大竹)

◆会員総会(もみじの会)

日 時：11月26日 17:30より
 (受付は17:00～)
 会 場：小石川後楽園 涵徳亭
 費 用：会 員 3,000円/人
 非会員 4,000円/人

今年も小石川後楽園内にて後楽会会員総会(別名：もみじの会)と題して立食パーティーを開催します。会員が多く集まる機会です。ぜひご参加下さい。庭園は、入園最終時間が16:30ですので、入園される方はご注意下さい。

◆新規会員ご紹介

2014年9月ご入会 日本中華總商会(法人)
 10月ご入会 庵 政行さん(個人)

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林、緒方、大竹
 電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263
 メールアドレス：kourakukai@jcf.or.jp



活動記録

◆2014 後楽寮国慶節祝賀会

9月27日、国慶節祝賀会が大ホールで行われ、日頃お世話になっている友好団体の方々等200名余りが寮生と共に建国65周年を祝いました。まず寮生委員会の梁英宗委員長が寮生を代表して挨拶し、続いて武田理事長、中国大使館教育処の陳世華二等書記官がご挨拶されました。

寮生のパフォーマンスでは後楽寮イケメン4名による歌、サクソ演奏、民族舞と現代的なダンス、中国民族楽器と西洋の楽器による合奏と様々な内容で来場者の目と耳を楽しませていました。最後に「中国心」「花は咲く」「後楽寮の歌」を寮生で合唱し、第1部が終了しました。



毎回工夫を凝らしている寮生手作りのプログラム

その後、後楽寮食堂に会場を移し、後楽寮の調理師による料理を味わいながら歓談し、ここでも寮生のパフォーマンスが披露されました。ゲームやビンゴ大会もあり、来場者や寮生は賑やかな雰囲気の中、遅くまで楽しんでいました。

8月の暑い時期から寮生達は週末になると練習や全体リハーサルをし、祝賀会前日や当日も飾り付けや会場整理、最終リハーサルなど、勉強や研究が忙しい中、寮生委員会を中心に一生懸命準備をしていました。その甲斐もあり、祝賀会は大成功に終わりました。



寮生による合唱

後楽寮之歌

- 少年追逐着梦想 来到这樱花的国度
相同的拳拳之心 讓我們在这里牽手
後樂 後樂 我們的家
来吧 来吧 這溫暖的家
日夜刻画着年輪 揮洒汗水澆灌青春
離忘母親的期待 更不負國家的重托
後樂 後樂 我們的家
我們我們 在這裡擯博
壯志凌雲 步伐堅定 為中華崛起而奮發。
年輕的心一起放飛夢想
歌声飛過高山 飛過海洋
年輕的心一起放飛夢想
祖國的明天我們來創造

- 櫻花樹下記念相逢 紅楓林里見證朝夕

以下 { 部分繰り返し

年輕的心一起放飛夢想
歌声飛過高山
飛過海洋
為了祖國的富強中日友好
我們沸騰熱血 燃燒生命。

後楽寮之歌は2012年に寮生の常慶さんが作詞、班文林さんが作曲したものです。毎年国慶節や春節の祝賀会の際に後楽寮合唱団によって歌い継がれており、後楽会(中国)友好聯誼会のHP (<http://www.houlejlb.org>) にも歌と歌詞が掲載されています。

(留学生事業部)

◆9月談話会

9月11日、後楽寮生で、早稲田大学文学研究科にて東洋史学を学ぶ孔明さんを講師に迎え、「天下第一の家-孔子七十五代の子孫が語る-」をテーマにお話し頂きました。孔明さんは、孔子の75代目の子孫にあたるそうです。講義では、漢代以降、歴代王朝により孔子の直系の子孫に与えられた封爵名の変遷や、政治・教育・経済・治外法権におけるさまざまな特権、近世まで孔子一族がたどった知られざる歴史などをご紹介いただきました。

参加した皆様は、「天下第一の家」と称された孔子一族が、長年に渡り人々の崇拝の対象であり続けたことを感じ、興味深く聴講していました。



講師の孔明さん

参加者の感想（一部）

- ・孔子の教えや歴史については学習したことがあったが、孔子の子孫についての話は初めて聞いたので良かった。
- ・大変詳しく講義してくださったので、後半のお話の時間が足りず、少し残念だった。
- ・聞き慣れない人名が多く出てきて、話を理解するのに少し時間がかかったが、貴重な話を聞けて嬉しかった。
- ・交流夕食会では沢山の留学生と習った中国語で会話することができ、とても楽しい時間がすごせた。

（後楽会事務局）

◆「JENESYS2.0」

中国青年代表団が来日

一行94名が

東京・広島・京都を訪問

8月26日から8月31日までの日程で、中国青年代表団（団長＝王秀雲 中国日本友好協会副会長）計94名が来日した。



舛添要一 東京都知事を表敬訪問

本団は、中国北京市の公務員・経済・農村青年幹部の3分野の青年で構成され、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

代表団は、東京・広島にて、官庁・企業・関係団体など各分野に関連する訪問・視察を行ったほか、地方自治体によるブリーフや世界遺産参観など、包括的な対日理解を深めるためのさまざまなプログラムに参加した。

公務員・経済・農村青年幹部が 各分野で多彩な活動

東京では、3分団に分かれて訪問・視察を行った。

公務員分団はまず、東京都庁を訪れ、舛添要一知事を表敬訪問し、都議会の議場を視察した。東京都は北京市と友好都市関係を結んでおり、舛添知事は代表団を笑顔で歓迎し、首都行政について王団長と意見を交換し、今後ともに協力関係を築いていくことを確認した。

先端技術館 TEPIA では、さまざまな日本企

業の最先端技術を用いた製品の展示を見て回り、実際に製品に触れてその技術力の高さを実感した。

経済分団は、日本経済の中心地の一つである東京証券取引所を視察し、株式市場の動向をリアルタイムで目にしながら、日本の株式市場の仕組み等について解説を受けた。

さらに、東芝未来科学館を訪れ、同館の紹介と東芝株式会社の担当者より事業概要説明を受けた後、館内を視察した。同社の技術発展の歴史について知るとともに、最新技術に触れ、質疑応答の際は、担当者と積極的に交流を図った。

農業青年幹部分団は、農林水産省を訪問し、日本の農業の概要や政策について説明を受けた。日本の農業の基本的な状況を学び、質疑応答も活発に行われた。

また、JA 東京あおばの農産物直売所である総合園芸センターふれあいの里を視察し、日本の特徴的な農業経営組織であるJAについて理解を深めた。

広島では、公務員・経済と農村青年幹部の2つに分かれて訪問・視察を行った。

公務員・経済分団は、広島県商工労働局より、同県の産業振興政策についてブリーフを受けた後、同県の「オンリーワン・ナンバーワン企業」に認定された中国醸造株式会社を訪れ、酒造りの現場を視察した。日本酒や焼酎は中国でも人気が出ており、見学した製造工程に団員も興味津々だった。ブリーフと関連した企業視察を行ったことで、同県が力を入れている産業振興の取り組みについて、より一層理解を深めることができた。

農村青年幹部は、広島県農林水産局より、同県の環境に配慮した農業政策に関するブリーフを受けた。特に、特別栽培物認証制度やエコファーマー制度といった有機栽培関連の政策について団員の関心が高く、多くの質問があがった。

また、安芸太田町を訪問し、同町の農村振

興について説明を受けた後、地元の美しい棚田の風景を視察するとともに、ホームステイを受け入れている農家の方々と交流した。

そのほか、東京では皇居二重橋・浅草寺・東京タワー、広島では世界遺産である厳島神社・原爆ドームや平和記念公園・広島市中工場（ごみ処理工場）、京都でも世界遺産の清水寺を参観し、日本の社会・文化・歴史・環境について触れた。



美しい棚田が広がる広島県安芸太田町

6日間の多彩な活動を通じて、団員は専門分野の交流とともに、日本に対する理解や関心をより一層高め、日本を身近に感じる経験となったようだった。

本団の受け入れにご協力くださったご関係の皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

◆ 「JENESYS2.0」 中国大学生訪日団第14陣が来日 東京・神奈川・大阪・京都にて 一行97名が芸術をテーマに活動

9月18日から9月25日までの日程で、中国大学生訪日団第14陣(団長=王占起 中国日本友好協会 政治交流部部長)が来日した。本団は、北京電影学院、清華大学美術学院、中央美術学院で芸術分野を学ぶ大学生で構成された計97名で、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は第1分団は映画・アニメ、第2分団は撮影、第3分団は絵画を学ぶ学生で、東京、神奈川、大阪、京都を訪問。日本の大学生との交流や、芸術を大きなテーマとしたセミナーや講義、地方自治体によるブリーフ、企業視察のほか、「クールジャパン」を体感するさまざまなプログラムに参加し、歴史・文化・社会など包括的な対日理解を深めた。

専攻に合わせた大学や企業を訪問

東京では第1分団は日本大学芸術学部映画学科、日本映画大学、東京工芸大学へ、第2分団は日本大学芸術学部写真学科、第3分団は武蔵野美術大学を訪問。それぞれ施設・設備見学や学生との意見交換、作品の相互評論等を行い、自身の今後の創作活動への刺激となる交流となった。



武蔵野美術大学 日本画学科にて
学生の作品紹介を受ける

企業は第1分団はソニービジネスソリューション(株)、第2分団はキヤノン(株)を訪問し、実際に製品を見学したり触れたり、最新技術についての講義を受け、日本の高い技術力を実感した。第3分団は、文化財等の修復を行っている(株)半田九清堂を訪問し、作業中の工房を視察。団員からは次々と質問があがり、収穫の多い訪問となった。

このほか、第1分団は日本大学芸術学部で、東京で訪問した大学の学生約70名と一緒に、高畑勲映画監督と佐藤忠男日本映画大学学長・映画評論家による特別講義を受講した。日本アニメ・映画界の第一人者から、製作者としての視点や、小津安二郎監督作品について学ぶ貴重な講義となった。

第2・3分団は、横浜市で開催されている「ヨコハマトリエンナーレ」を視察し、逢坂恵理子横浜美術館館長のセミナーに参加、世界の国際展との比較や現代美術を通じた街の活性化について学ぶ機会となった。

また第1分団は、横浜市で開催された「国際平和映像祭2014」に参加した。平和をテーマとする5分間の映像の多数の応募の中から、北京電影学院の学生の作品がグランプリを受賞した。

大阪・京都にて 芸術を肌で感じるプログラムに参加

日程後半は関西へ移動し、全分団揃って大阪芸術大学を訪問した。各専攻に合わせた学部で、それぞれ日本の学生の創作活動や実習の様子を見学し、自身の大学との共通点や異なる点を発見する機会となった。

また、京都市文化芸術企画課の「京都市の文化行政について」のブリーフを受け、京都市が取り組んでいる、新旧の文化の共存や、若い世代への文化伝承について学び、中国でも参考になるとの感想が多く聞かれた。

京都では、第2分団は京都写真家協会の協力を得て、京都東山エリアを撮影しながら散

策・交流を行い、プロの写真家の技術を学ぶとともに、京都の歴史を肌で感じた。第3分団はオープンしたばかりの京都国立博物館の平成知新館で開催している記念展を視察した。絵画・書跡・彫刻・工芸・考古の各分野から選りすぐられた名品・名作を通し、日本文化の粋について理解を深めた。

そのほか一行は、東京では浅草寺・東京タワー、京都では世界遺産の二条城・金閣寺、伏見稲荷大社などの参観や、茶道・友禅染の体験を通し、さまざまな角度からクールジャパンを体感した。



京都写真家協会の会員からプロのカメラワークを学ぶ

ほとんどの団員が初来日で、「日本の大学生と交流し、お互いの作品を見せ合い刺激を受けた」「日本の伝統文化の保護や伝承、新しい文化の取り入れなどが参考になった」「日本人の感謝の気持ちを大切にできる態度、もてなしの心に深く感動した」「今回の体験を家族や友人に伝えたい」といった感想が多く聞かれた。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

ご挨拶

◆留学生事業部に夏瑛副部長が着任



中国教育部の派遣で来日した夏瑛(シアイン)と申します。この度、(公財)日中友好会館留学生事業部副部長に任命されてとても光栄に存じます。

私は日本との縁が深く、30年前に放送された日本のドラマ『燃えろ、アタック』(中国語名:排球女将)の影響を受けて、高校時代から日本語を独学し始めました。大学で更に日本語を勉強してから浙江大学で働き、いままで大学図書館、外国語学部、対外交流部、対外経済貿易学院および経済学院などで仕事を経験してきました。2001年8月に早稲田大学国際経営学の修士学位を取得後、浙江大学に戻り、大学で教鞭を取りながら、日中間経済・文化の民間交流も多少関わりました。ここ10年間は特に浙江省杭州市で日中間コンテンツ産業の産官学連携に力を入れてきました。そして日本動漫(アニメ・マンガ)産業研究の博士論文を完成しました。

1999年12月に後楽寮へ入寮し、約22ヶ月間、寮生活を過ごしてきました。元寮生として、13年ぶりにまた寮に戻り、留学生事業部の仕事を始めることはとても運命的だと思います。着任して間もなく、事務室へ15年前の元調理師劉さんの息子さんが、わざわざ野原部長へ挨拶に来たことや、16年前の元寮生郭さんは娘を連れて日本へ旅行に来ましたが、後楽寮の生活が懐かしく、寮へ来なければ気が済まない感じだったということです。これらの場面に出合い、留学生事業は日中友好事業の一環として、心と心の絆の大切さを実感しました。

これからは微力ながら皆様と力を合わせて仕事に全力を尽くしたいと思います。どうか皆様のご指導とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事務局通信

このコーナーでは、弊会館をより一層、身近に感じていただくことを目指して、さまざまな内容をお伝えします。今回は、総合交流部のご紹介をいたします。

◆ 総合交流部のご紹介



大人数の団員を旗で誘導する
(「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第6陣
京都市内参観)

総合交流部は日中青少年交流の業務を担当しています。中国の青少年を招聘して、日本各地を訪問し、日本の魅力を理解するための視察や、日本の青少年との交流を行ったり、日本の青少年を中国へ派遣して、中国青少年との交流や参観などに参加するプログラムを実施しています。

現在は、外務省が推進する青少年交流事業である「JENESYS2.0」の中国との交流を担当しており、中央官庁、地方自治体や各界の協力を得て、大規模な交流計画を遂行しています。

部員は16名で女性が多く、中には中国出身の職員や中国留学の経験者、特技は太極拳や卓球といったスタッフもいます。澁刺とした雰囲気のある部署ですが、受け入れ先との打ち合わせや代表団の随行で頻繁に出張があるため、事務所は静かに感じることも多くなっています。

交流プログラムは約1週間で、1日にいくつもの訪問や参観が含まれるため、アレンジや活動を実施する際は、かなり慌ただしくなります。1つの事業を2~3人1組で担当し、実施の約2か月前から準備します。また、セミナー講師の依頼や通訳スタッフの手配、歓迎会案内発送やアンケートの集計など、すべての事業に共通する業務を係に分かれて担当しています。

交流の現場では、学校交流やホームステイの終了時など、団員が訪問先に別れを告げる際に、日中双方の参加者が涙をこぼす場面に立ち会うこともよくあります。また社会人プログラムで、日中双方の関心が一致して、活発な意見交換が交わされたり、団員から、「知り合った日本の友人とこれからも友情を深めていきたい」「日本が大好きになった。ぜひまた来たい」といった感想が寄せられるとき、職員は皆やりがいを強く感じます。

これからも交流を通じて、日中両国の相互理解と友情が深まることを願い、活動内容をより一層充実させられるよう努力していききたいと思います。



訪日団員と一緒に記念撮影
(「JENESYS2.0」
2013年アジア国際子ども映画祭参加訪日団)

コラム



理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

関東地方では、台風19号が足早に過ぎ去った後、すっかり涼しくなり、行楽やスポーツを楽しむ、そして本業にも集中できる季節になりました。

10月15日(水)、東アジア共同体評議会が開催した国際会合「テーマ：未来志向の関係構築における日中青年交流のあり方」にパネリストの一人として参加する機会を得ました。

上記テーマの日中研究交流事業は、外務省の支援の下に東アジア共同体評議会が実施したもので、2013年9月～12月に実施した調査・研究、交流に基づき、2014年2月に政策提言が提出されています。その報告は、現場で日中青少年交流事業を担当している我々にとっても、課題が共有できる、今後の事業活動に多くの示唆を頂くとする意味で極めて有益なものであり、国際会合に参加できたことに感謝致します。誌面の制約でその内容を詳しく報告することはできませんが、私個人の所感を述べたいと思います。

1. 今回の研究に参加された日本側チームメンバーは、東アジア共同体評議会有識者議員で必ずしも中国関係の専門家ではないが、グローバルな研究活動の経験を有しておられる大学教授で構成されており、その報告は「中国屋」の枠を超える幅広い視野と鋭い視点で記述されている。日々中国との交流に専念している我々もグローバルな見方を心掛けなければならないと痛感した次第である。
2. 中国側研究チーム主査である高益民教授（北京師範大学）は、「政府主導の時代から民間主導＋政府支援の時代に転換させる努力が必要である。」と指摘されているが、この指摘は極めて的を得たものであると思う。青年交流は、大学生を含む民間の知恵と情熱をエネルギーとして、産官学がそれを支援し制度化する方式で発展させることが望ましい。
3. 中国との安定的な友好関係は、我国の将来にとって従来以上に重要なものであるが、より多くの日本の学生・青年が中国に対する偏見のない視点、正確な知識を持つことがその基礎になると思う。少なくとも大学生は偏ったマスコミ報道を冷静に読み解く力を持って欲しい。併せて、学生に対する影響力が大きい教職員の方々の相互交流活動の拡充も欠かせない。学生主体の日中交流活動を国際協力基金日中交流センターが支援されているが、更に多くの日本人学生が嬉々として参加する交流事業の企画と支援策を模索して行きたいと思う。



会館行事と人の動き 9/1 ~ 30

会館行事

- 9/ 4 ▶ 後楽会気功・中国画教室
留学生事業部 陳世華副部長 離任
- 9/ 4~9/ 7 ▶ 貸美術館催事「第25回日中友好自詠詩書交流展東京展」(9/4 開幕式)
- 9/11 ▶ 後楽会談話会・交流夕食会「天下第一の家-孔子七十五代の子孫が語る-」(講師: 孔明)
- 9/12 ▶ 第13回理事会
- 9/18 ▶ 後楽会気功教室
- 9/18~9/25 ▶ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第14陣 来日(9/19 同団歓迎会、9/24 歓送報告会)
- 9/23 ▶ 総合交流部 王加新部長 離任
- 9/24 ▶ 留学生事業部 夏瑛副部長 着任
- 9/26 ▶ 第24回中国文化之日「青海省タンカ芸術展」開幕式・制作実演・祝賀宴
- 9/27 ▶ 後楽寮国慶節祝賀会
東京華僑総会国慶節祝賀会

来館・訪問・面会

- 9/ 1 ▶ 留日学人活動站 李贊東副主任 来館(武田理事長、王昆中国代表理事、荒井常務理事)
- 9/ 2 ▶ 遠山茂 青島総領事 来館(赴任挨拶 武田理事長、王昆中国代表理事、荒井常務理事)
法政大学 及川淳子研究員 来館(武田理事長、荒井常務理事)
- 9/ 8 ▶ 東京大学大学院 阿古智子教授 往訪(武田理事長、荒井常務理事)
- 9/18 ▶ 上海総領事館 岡田健一首席領事 来館(赴任挨拶 武田理事長、谷野顧問)
- 9/27 ▶ 岸関子賞審査会(武田理事長、村上顧問)

行事参加、その他の活動

- 9/ 5 ▶ 中国大使館教育部 中秋節祝賀会 (武田理事長、留学生事業部)
- 9/25 ▶ 中国大使館建国65周年国慶節祝賀会
(江田会長、武田理事長、荒井常務理事、谷野顧問、村上顧問他)
- 9/28 ▶ 第10回東京 北京フォーラム(後楽寮生)



発行

2014年11月1日発行 第305号

公益財団法人 **日中友好会館**

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811 5317 FAX(03)3811 5263

<http://www.jcfc.or.jp/>